

番号	126	昭和搦竣工記念碑 佐賀県知事 池田直書		
所在地	白石町福富南区			
災害別	昭和３４年（１９５９）高潮 ほか			
目的別	記念碑	建立年	昭和３８年１２月	
特記事項	大正３年（1914）、昭和１７年（1942）、昭和３１年（1956）の高潮の記載あり			



有明海の干拓地は、大正3年8月の高潮をはじめ、これまで幾度となく高潮の被害にあってきた。なかでも昭和34年9月16日から17日の台風14号「宮古島台風」は、台風の接近時が満潮と重なり、佐賀、長崎の有明海沿岸部に甚大な高潮被害をもたらした。白石町福富にある昭和搦記念碑には、竣工に至るまでの高潮被害の状況とその復旧にかかった苦勞が記されている。(原文はカタカナ表記)

「我が昭和搦は^{そう} 面積八十七町四反五畝堤防
 總延長二千二百五十米にして大正二年橋本源至
 外三百五十名に依り公有水面埋立認可申請が出
 されしも翌大正三年八月二十五日の有明海沿岸
 一帯高汐大災害に因り中止の止むなきに至り大
 正十五年埋立認可を得翌昭和二年福富才三耕地

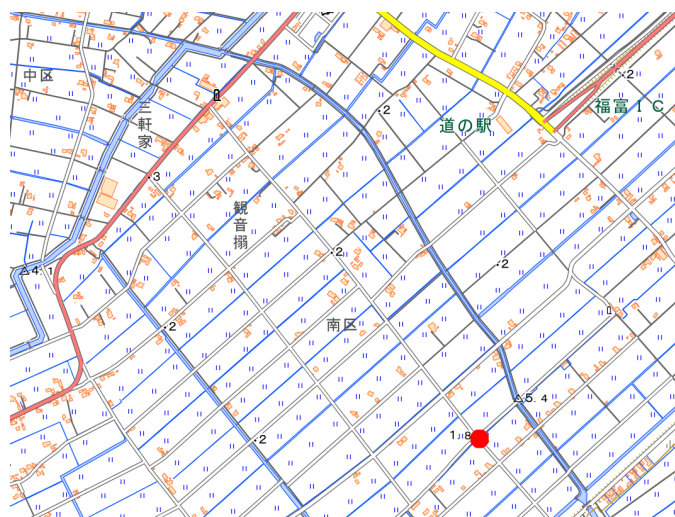


理組合設立認可の許に組合長紀伊八平副組合長橋本源至全田島秀四郎氏を選任し直ちに堤防工事を江北町稻富組と請負契約を締結せられ爾来万難を排して事業の進捗を図り昭和六

年汐止工事を終へ翌七年稲作灌漑用水源として当時率先して鑿井を掘鑿翌八年より稲作及棉作を試作以来年々実収も上昇し当時羨望の干拓地と稱せらる昭和八年九年十年と各戸入植し既に一部落を成せり

昭和十六年^{ようや}漸く一応工事完了翌十七年換地処分を行われたり同年八月台風により高汐の為堤防決壊し稲作収穫皆無の被害を蒙り堤防は全線に亘り弱体化し当地が有明海特有の軟弱地盤の事にて堤防沈下や陥没漏水等に悩まれ組合に於ても之れが補強対策には枚挙に暇なく苦難^{つづ}を續け十数年を過したり 昭和三十一年八月九号台風續て九月十二号台風越へて三十四年九月台風に襲れ堤防は^{ほとんど}殆壊滅し爲めに家屋は流失全壊又は半壊一切の家具農機具等も同しく流失又は破壊され折角丹精こめた稲作も再度枯死全滅す その惨状^{まこと}洵に言語に絶するものあり依て県当局に於て昭和三十五年以来本格的復旧改良工事を進められ茲に待望の堤防も完成し我等住民も愈々安定することを得たり 惟うに數十年に亘る事業遂行に就ては元福富才三耕地整理組合役員及組合員各位の洵に私事を顧ず身命を賭して奉仕的努力と関係県当局の適切な指導監督國県の財政援助とはた又村当局及全村民の絶大なる協力の成果なるを思ひ衷心より感謝すると共に我々地元民に於いても數度の災害に依る積年の困苦欠乏に堪え今日に至る洵に感慨無量なるものあり 今茲に黄金の波漂ふ秋を迎へ組合一同相謀り竣工記念碑を建設し更に干拓魂を新たにして協力一致益々国家の要請する食糧増産に精励し本干拓地が^い彌が上にも繁榮することこそ今は亡き歴代組合長始め各位の労苦に報ゆる所以なり 茲に由来を記念して後世に遺すものとす 昭和三十八年十二月八日 昭和搦組合」

(上段切石) 福富才三耕地整理組合役員、組合員氏名等 (略)



国土地理院電子国土 Web